

中長期目標 (学校ビジョン)		保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる		今年度の 重点目標	1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、物事を批判的に考察し、主体的に行動できる力をつける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動等に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	年度当初		評価結果 (2)月	
評価項目	評価の具体項目	現状(令和4年度実績等)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況【()内の数値は昨年度】	評価	改善方策		
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、物事を批判的に考察し、主体的に行動できる力をつける	【自覚と誇りを持つ】 ・規律正しい生活を送っている ・明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができています ・制服を適切に着こなしている	・生徒は概ね規範意識が高く、基本的な生活習慣、身だしなみなどでも逸脱せず、落ち着いた学校生活を送っている。 ・執行部を中心に、校則の見直しに取り組んでいる。 ・生徒の抱える課題の多様化複雑化をうけ、関係機関等と連携し、支援している。 ・中学生体験入学、オープンスクール、鳥商デパートで、生徒が中学生・保護者への説明を行った。 ・人権教育LHR・講演会の人権問題への自らの意識を振返った。 ・生徒へのアンケートより鳥商に入学して良かった 92.5% 特別活動に積極的に参加している 92.7%、安心して学校生活を送ることができる 94.8%。 ・保護者へのアンケートより鳥商は保護者・地域社会から信頼されている 84% 生徒は挨拶ルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている 84%	①本校に入学して良かったと思っている生徒が90%以上である。 ②規範意識が高く、社会、学校の規則を守り、自らが考え、場面に応じた行動をとっている。 ③学校行事、生徒会活動、部活動に主体的に取り組む、集団に貢献している生徒が90%以上である。 ④安心して学校生活を送っている生徒が90%以上である。	・鳥商で学びのスタイルを早期に身につけさせ、実社会と関わる経験をもたせることで、将来の社会生活に向けた自立を支援する。 ・学校内外での望ましい行動や態度が学校全体に好影響をもたらし、その結果地域社会からの信頼を得ることができると意識させる。	①(生徒)本校に入学してよかったと思っている 96% (92.5%) ②(保護者)生徒に挨拶やルール、マナー等、社会に通用する意識や態度が育っている。 83% (84%) ③(生徒)学校行事・生徒会活動・部活動に主体的に取り組む、集団に貢献している。95% (92.7%) ④(生徒)安心して学校生活を送っている。 97% (94.8%)	A	・様々な事業を見直し、生徒の心に響かせるものへ変更する。		
	【自ら考え、判断し、行動できる】 ・高い規範意識、人権意識に基づき秩序だった言動ができています ・周囲や集団に貢献する姿勢・主体的に考え行動する力が身につけている	・1. 2年生は、企業研修や研修旅行の志望別研修等を通して、進路意識が高まった。 ・3年就職希望者は青年会議所による面接指導や外部講師によるビジネスマナー講習会を通して、社会で求められる力を認識できた。 ・進学希望者に対しての小論文指導、面接指導を全学年の教員で細やかにやっている。	①体系的に計画実施される進路行事を活用して生徒が適切な進路選択を行っている。 ②各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ③社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が、学年に応じた形で身につけている。 ④就職希望者内定率、進学希望者合格率共に100%である。	・生徒一人ひとりに鳥商生としての自覚を持たせるとともに自主的な行動を促し、学校の活性化に貢献することを意識させる。 ・学校生活アンケート、QUアンケートを継続し、関係機関等と引き続き連携する。	①(3年生)進路指導は、生徒一人ひとりの目標実現に役立つよう行われていると思う。 94% ②(3年生) 全商検定1級3種目以上取得 36.3% (44.3%) 1級未取得者 10.3% (8.9%) ③(1,2年生) ニュースレポートにきちんと取り組めた。98% ④(3年生) 就職希望者内定率 100% (100%) 進学希望者内定率 100% (100%)	B	・生徒会が昨年度末に改訂された生徒会自治規則の検証をし、生徒とともに確認する時間を設ける。 ・環境教育の実践。		
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する	【望ましい職業観、勤労観を身につける】 ・体験的活動で効果的に身につけている ・自立・自律のための実践力や応用力が身につけている	・3年次の全商検定1級取得状況：3種目以上74名(121名)、取得率は44.3(65.5)%、1級未取得者は13名(0名)。1級最多取得数は5種目、商業経済検定全科目合格は1名(14名)※()内昨年度人数 ・進路学習デーでは、企業や進学先学校の方から直接、仕事や学びの内容等の説明を聞き、進路実現に向けた課題を把握できた。 ・1、2年生34人が4年制大学見学会に参加、模擬授業や学生の講話により進学意欲を高めた。この経験を進路実現のためにどうつなげるかが次の課題である。	・鳥商手帳の活用(自身の考えの変容に気づき、進路選択に資する) ・検定週間や補習(長期休業中、平日)を設定。(学習内容定着のため) ・4年制大学の大学研修・大学見学会・オープンスクールへの参加の勧奨。 ・進路実現に向けた準備の早期化を促すため) ・全学年対象の公務員セミナーの継続。	・生徒の実態をうけ、自己表現力育成プログラムのインプットとアウトプットのバランスを見直した。 ・3年次進学希望者への小論文指導、面接指導を教職員で担当を決めて実施する。就職希望者については社会人による面接指導を継続して実施する。	①(3年生) 進路指導は、生徒一人ひとりの目標実現に役立つよう行われていると思う。 94% ②(3年生) 全商検定1級3種目以上取得 36.3% (44.3%) 1級未取得者 10.3% (8.9%) ③(1,2年生) ニュースレポートにきちんと取り組めた。98% ④(3年生) 就職希望者内定率 100% (100%) 進学希望者内定率 100% (100%)	B	・進路先別集会等を行い、進路研究の機会を増加させる。 ・令和5年度のフィールドスタディの方法を継承し、システムとして定着させる。		
	【進路実現に向けて努力する】 ・体系的、計画的にキャリア教育に取り組んでいる ・将来の社会生活、職業生活に結びつく進路選択ができています ・進路実現に資する模擬試験、実務検定試験等に主体的に取り組んでいる	・1. 2年生は、企業研修や研修旅行の志望別研修等を通して、進路意識が高まった。 ・3年就職希望者は青年会議所による面接指導や外部講師によるビジネスマナー講習会を通して、社会で求められる力を認識できた。 ・進学希望者に対しての小論文指導、面接指導を全学年の教員で細やかにやっている。	①体系的に計画実施される進路行事を活用して生徒が適切な進路選択を行っている。 ②各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ③社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が、学年に応じた形で身につけている。 ④就職希望者内定率、進学希望者合格率共に100%である。	・鳥商手帳の活用(自身の考えの変容に気づき、進路選択に資する) ・検定週間や補習(長期休業中、平日)を設定。(学習内容定着のため) ・4年制大学の大学研修・大学見学会・オープンスクールへの参加の勧奨。 ・進路実現に向けた準備の早期化を促すため) ・全学年対象の公務員セミナーの継続。	・効果のあった取組：国語科 新聞ニュースの要約、公務員セミナー、青年会議所による面接指導検定補習、進路講演会(卒業生に学ぶ)、社労士による出前授業求人票や受験報告書のClassroom公開、進路LHRことの振り返りシートの記入 ・志望理由書作成や小論文指導に例年より苦戦した。	①(3年生) 進路指導は、生徒一人ひとりの目標実現に役立つよう行われていると思う。 94% ②(3年生) 全商検定1級3種目以上取得 36.3% (44.3%) 1級未取得者 10.3% (8.9%) ③(1,2年生) ニュースレポートにきちんと取り組めた。98% ④(3年生) 就職希望者内定率 100% (100%) 進学希望者内定率 100% (100%)	B	・理解の遅れを早期に取り戻すため、検定補習実施を冬休みから夏休みに変更して行う。 ・各種講演会や校内での研究会の見直しを行い、内容の検討を行う。	
3. 健康に留意し、学力向上と部活動等に励む	【健康に留意する】 ・基本的な生活習慣の大切さを理解している ・運動・食事・睡眠に留意して規則正しい生活を送っている	・新型コロナウイルス感染症による臨時休業が2回(4月、7月)あったが、行事の実施方法や日程の変更を行い、大部分の行事に予定どおり参加できた。 ・学校保健委員会の協働で「コロナ禍における基本的な生活習慣の乱れ」を指摘された。 ・3年間の健康教育LHR(けが予防の体づくり)により、実施した3年次生の体づくりに対する意識は向上した。 ・体力テスト等の結果を見ると、鳥取県平均を下回っている種目が複数あり、運動習慣がない生徒が増えている。 ・生徒へのアンケートより授業に集中できている 91.9% 朝食を毎日食べている 89% 就寝・起床、食事など規則正しく生活している 80.6% 睡眠が足りない 62.4%	①適切な自己管理が行われており、自主的な運動を心がけ、体力向上に努めている。 ②授業に集中できている生徒が95%以上である。 ③朝食を毎日食べている生徒が90%以上である。 ④睡眠が足りない生徒が50%以下である。 ⑤商業科目、普通科目とも主体的に学んでいる。 ⑥調査期間を除く自宅学習時間が1日60分以上。 ⑦多くの生徒が部活動等を行い、学習と両立している。 ⑧部活動がバランスのとれた人格形成の場になっている。 ⑨部活動が生徒主体の活動となっており、自ら設定した目標に向けて努力している。 ⑩全国大会出場部の部活動が前年度より多い。	・健康教育LHR(食育)の実施と、年間を通じた啓発活動。 ・人間関係づくりの教材作成と、入学時からの活用。 ・アンケート(学校生活・健康教育・長期休業明け)の継続による、生徒の心のケア。 ・体育行事(体育祭、強歩大会)の実施。	①(生徒)自主的な運動を心がけている。 78% ②(生徒)授業に集中できている。97% (91.9%) ③(生徒)朝食を毎日食べている。 92.7% (89%) ④(生徒)睡眠が足りない。 64% (62.4%) ⑤⑥ 自宅学習調査 1年50.6分(48.4分) 2年47.7分(43.2分) 3年38分(30.7分) ⑦(生徒)部活動が両立できている(前期)。66% ⑧(1,2年生)部活動に積極的に取り組んでいる。83%	B	・生徒保健委員、PTA研修部、教科と連携して引き続き食育活動を行う。生徒の意識を高めるためコンテスト等も企画する。 ・睡眠に関する指導を教科と連携して行う。		
	【学力向上に努める】 ・主体的な授業への取組み ・進路実現を意識した継続的な自宅学習	・定期考査前、検定前の学習時間は長い、通常時の自宅学習時間は短い。 家庭学習時間：1年 48.4分(50.1)、2年 43.2分(29.6)、3年 30.7分(35.6)※()内は昨年度数 ・コロナ感染及び異常気象による臨時休業時に学習保障としてリモート授業で、生徒は安心を得られる反面、授業理解は限定的である。 ・1年生の学習評価に観点別評価が今年度より導入された。	①適切な自己管理が行われており、自主的な運動を心がけ、体力向上に努めている。 ②授業に集中できている生徒が95%以上である。 ③朝食を毎日食べている生徒が90%以上である。 ④睡眠が足りない生徒が50%以下である。 ⑤商業科目、普通科目とも主体的に学んでいる。 ⑥調査期間を除く自宅学習時間が1日60分以上。 ⑦多くの生徒が部活動等を行い、学習と両立している。 ⑧部活動がバランスのとれた人格形成の場になっている。 ⑨部活動が生徒主体の活動となっており、自ら設定した目標に向けて努力している。 ⑩全国大会出場部の部活動が前年度より多い。	・年間2回の自宅学習時間調査の継続実施。 ・ゲーブルフォームによる課題提出等の活用。(授業を大切に、自主的に学習に取り組む仕掛けを行い、授業向上を図るため) ・進路指導部・学年・教科との一層の連携。 (補習・模試希望者の募集等で意識高揚を図るため)	①(生徒)自主的な運動を心がけている。 78% ②(生徒)授業に集中できている。97% (91.9%) ③(生徒)朝食を毎日食べている。 92.7% (89%) ④(生徒)睡眠が足りない。 64% (62.4%) ⑤⑥ 自宅学習調査 1年50.6分(48.4分) 2年47.7分(43.2分) 3年38分(30.7分) ⑦(生徒)部活動が両立できている(前期)。66% ⑧(1,2年生)部活動に積極的に取り組んでいる。83%	B	・授業展開を工夫し、生徒の主体性を育むを取組をすすめ、授業評価アンケートにてその効果を確認する。 ・AI採点を校内に普及させ、教員が学力向上により力をいれられるようにする。		
	【部活動に励む】 ・多くが部活動等に励んでいる ・目標達成への努力を積み重ねることで人間的に成長している	・全国大会出場部の部活動は5部であった。 ・コロナ禍でも、各都で練習方法等を工夫している。 ・前期授業評価アンケートより部活と学習の両立ができていない 28% ・ほとんどが部活動に加入しているが、人間的成長につながっていない面もある。	①適切な自己管理が行われており、自主的な運動を心がけ、体力向上に努めている。 ②授業に集中できている生徒が95%以上である。 ③朝食を毎日食べている生徒が90%以上である。 ④睡眠が足りない生徒が50%以下である。 ⑤商業科目、普通科目とも主体的に学んでいる。 ⑥調査期間を除く自宅学習時間が1日60分以上。 ⑦多くの生徒が部活動等を行い、学習と両立している。 ⑧部活動がバランスのとれた人格形成の場になっている。 ⑨部活動が生徒主体の活動となっており、自ら設定した目標に向けて努力している。 ⑩全国大会出場部の部活動が前年度より多い。	・部活動方針を守った活動時間の設定と学習との両立。 ・生徒主体の部活動運営と、それを支える部顧問による創意工夫。	①(生徒)自主的な運動を心がけている。 78% ②(生徒)授業に集中できている。97% (91.9%) ③(生徒)朝食を毎日食べている。 92.7% (89%) ④(生徒)睡眠が足りない。 64% (62.4%) ⑤⑥ 自宅学習調査 1年50.6分(48.4分) 2年47.7分(43.2分) 3年38分(30.7分) ⑦(生徒)部活動が両立できている(前期)。66% ⑧(1,2年生)部活動に積極的に取り組んでいる。83%	B	・放課後の過ごし方や部活動のあり方を考える意識調査等を行い、部活加入者と未加入者それぞれに対して活用する。		
4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	【社会人に必要な力を身につける】 ・笑顔の挨拶ができています ・時間を厳守している ・制服を適切に着こなしている ・丁寧な言葉遣いができています	・ほとんどの生徒が挨拶できており、チャイム前行動ができる。 ・マスクのせいか、笑顔の挨拶ができていない生徒が少ない。	①場に応じた適切な制服の着こなし、挨拶言葉遣いができる。 ②第30回鳥商デパートにおいて、鳥商で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用することができる。 ③図書などを利用した情報収集や、鳥商手帳を活用することができる。(自分の考えをまとめるため) ④グローバル社会を実感できる機会を1度以上持っている。	・定期的な身だしなみ指導と、丁寧な日常的指導。(マナー等も含め自己管理できることを目指す) ・学校運営協議会で意見や提言をいただく。	①(生徒)正しい服装、頭髪をしている。97% ②鳥商デパート売上高 9,610,221円 来場者数 6,500人 (鳥商デパートお客様意見)「対応がよかった、笑顔が良かった、接客がよかった」等の声多数あり。	B	・学校生活のルールについて話し合い、見直しを含めて検討する。(携帯電話の使用、ゴミの分別、部室棟の使用法等)		
	【ビジネス実践力を向上させる】 ・習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活用している	・鳥商デパートは、昨年度同様、生徒の家族と企業等の関係者のみで開催した。売り上げは5,317,234円、来場者は1,936人。 ・年次が進むごとに、鳥商手帳を活用している生徒が増えている。 ・新たに導入したジャパンナレッジ(オンライン辞書辞典検索サイト)、朝日けんさくくん(新聞記事検索閲覧データベース)等の活用が進んだ。	①場に応じた適切な制服の着こなし、挨拶言葉遣いができる。 ②第30回鳥商デパートにおいて、鳥商で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用することができる。 ③図書などを利用した情報収集や、鳥商手帳を活用することができる。(自分の考えをまとめるため) ④グローバル社会を実感できる機会を1度以上持っている。	・全生徒が鳥商デパート運営で創造力及び実践力を高める。 ・生徒主体で鳥商デパート経営委員会、マナー講習会等を運営する。 ・鳥商手帳の活用と、新聞データベースや図書館の利用を一層推進する。(今まで以上に社会へ目を向けさせるため)	③ 図書館利用者数 延べ9907人、貸出冊数合計 2,049冊(一人当たり4.5冊) 授業利用回数 275時間	B	・鳥商デパートアンケート結果を参考に、引継ぎフォルダの活用や、人員の配置や業務予定表の作成や予算計画の作成などを検討する。		
	【グローバル感覚、語学力を磨く】 ・交流を通してグローバル感覚が育っている ・英語運用能力が向上している	・エセックス高校との月1回のオンライン交流を継続。日本在住のエセックス高校卒業生を鳥商デパートに招き、対面で交流した。 ・鳥大留学生との交流会(3年)モンゴル・ポルノール町中等学校とのオンライン交流(ESS)を実施 ・全商英検合格者数1級9名(7)2級47名(40)3級151名 ※()内は昨年度数 ・4割の生徒が英語が苦手と回答している。	①場に応じた適切な制服の着こなし、挨拶言葉遣いができる。 ②第30回鳥商デパートにおいて、鳥商で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用することができる。 ③図書などを利用した情報収集や、鳥商手帳を活用することができる。(自分の考えをまとめるため) ④グローバル社会を実感できる機会を1度以上持っている。	・エセックス高校訪問に向けて、オンライン交流を継続しながら、幅広い生徒の参加を促す。 ・国際交流で得られた情報を全生徒へ発信する。	④ 交流参加延べ人数 222人 パーモント訪問来校(88人)、授業・部活体験(58人)、オンライン交流(43人) ウィークリーパートナー(9人)、鳥大留学生交流会(28人) 全商英検合格者数 1級11人(9) 2級47人(47) 3級151人(151)	B	・英語運用能力向上のため、3年生も学年として全商英語検定を受験する。 ・パーモント派遣事業を通して得たグローバル感覚を学校全体に波及させる取組を行う。		
5. 業務改善の取組	・校務分掌・任務分担の見直しが進んでいる	・年度途中で校務分掌、任務分担の変更を行ったが、一部の業務の偏りは解消できず、時間外業務削減が実現していない。 ・各種アンケート類はGoogleFormsで実施。集計等の時間が短縮された。 ・生徒の出欠管理等を掲示板で共有し、業務の効率化が進んだ。	①年間の時間外業務時間の合計が360時間を超える勤務者を7人以下にする。	・部活方針の徹底と、部活動の月別計画、実績表の活用。 ・部活動を生徒主体で行い、活動の質を高める。 ・対外業務停止日を設定する。(夏期休業中) ・校務分掌の任務分担を見直し、業務量の適正化を図る。 ・教員業務支援員へ業務を依頼し、教員の負担軽減を図る。	①時間外業務時間の合計が360時間以上の勤務者 6名 300時間以上の勤務者 14名(1月時点)	B	・職員会議等の会議が速やかに進行できるよう会議の持ち方を改善する。 ・鳥商デパート時等の時間外の電話対応の改善策を考える。		
	・長時間勤務者が解消している	・顧問に月別計画実績を丁寧に確認・指導。部活の時間外業務は多くない。 ・勤務時間の延長・短縮等で時間外業務を軽減減らしているが、昨年度比8%増である。(4月~1月)また、年間の時間外業務時間の合計が360時間を超える勤務者が13人であった。	①年間の時間外業務時間の合計が360時間を超える勤務者を7人以下にする。	・部活方針の徹底と、部活動の月別計画、実績表の活用。 ・部活動を生徒主体で行い、活動の質を高める。 ・対外業務停止日を設定する。(夏期休業中) ・校務分掌の任務分担を見直し、業務量の適正化を図る。 ・教員業務支援員へ業務を依頼し、教員の負担軽減を図る。	①時間外業務時間の合計が360時間以上の勤務者 6名 300時間以上の勤務者 14名(1月時点)	B	・AI採点の普及		